



「不思議な世界 法道仙人」

本号は、播磨各地に伝説が伝わる法道仙人についてお伝えします。

法道仙人は、兵庫県加西市にある一乗寺を中心に活躍したという伝説上の仙人です。6世紀半ばに、天竺（インド）の霊鷲山から渡来した仙人で、方術を駆使し、特に「飛鉢の法」を行ったことで知られています。加古川市米田町の由来は、“米墮”（方術で托鉢から米俵一俵が途中落下）という説もあるぐらいです。中世には播磨一帯の山岳寺院を開創した人物にみなされています。十一面観音信仰を広める一方で、陰陽道の術もわきまえていたことから、法道仙人の系統から蘆屋道満という強力な陰陽師が出現し、のちに安倍晴明と対決しました。加古川市の正岸寺（しょうがんじ）は、道満の屋敷跡といわれ、道満像・道満碑が存在します。



仏教と陰陽道を巧みに結びつけた呪術者の一人と思われませんが、民間の布教活動も盛んで、医薬を用いて病気治しを行っていたともいわれています。法道は方道とも書かれており、播磨からさらに能登（石川県）の石動山まで、方道仙人の奇蹟伝説が語られています。6～7世紀頃、中国・朝鮮半島を經由して、日本へと渡ってきたとされ、播磨国一帯の山岳などに開山・開基として名を遺し、数多くの勅願寺を含む所縁の寺がみられます。また、日本に渡る時に牛頭天王と共に渡ったとされ、その牛頭天王は姫路市にある廣峯神社に祭られ、その後は八坂神社中の座に祭られたとされています。

兵庫県には、開基の寺院が多く、高菴寺（稲美町野寺）、一乗寺（加西市）、摩耶山天上寺（神戸市灘区）、伽耶院（三木市）、清水寺（加東市社町）、朝光寺（加東市社町）、常勝寺（丹波市山南町）、光明寺（加東市滝野町）、東窟寺（篠山市）、常瀧寺（丹波市青垣町）です。また、他地域では長谷寺（鳥取県倉吉市）、仙龍寺（愛媛県四国中央市）、羅漢寺（大分県中津市）が知られています。